

2. 事業の概要と成果	
(1)上位目標の達成度	<p>本事業は、水と衛生指標の低いルパンデヒ郡の4行政村において、ネ国政府が進めるODF(Open Defecation Free、野外排泄撲滅)の達成に寄与し、地域住民の健康改善を促進することを上位目標とし、特に公立小学校の児童・生徒を直接対象として活動を行った他、学校と周辺コミュニティとの関係強化を通じて、同目標の達成を図るものである。</p> <p>事業終了時におけるODFの達成状況は、ダマウリ行政村及びマイナヒヤ行政村ではこれを達成し、またハティ・バンガイ行政村においても95%を達成している。カマリヤ行政村では65%となっているが、事業開始時に30%未満であったことを考えると顕著な改善が見られている。なお、ODFは、郡水道局が管轄する「郡水・衛生管理委員会」が定める、1)各世帯におけるトイレ設置状況、2)公的施設におけるトイレ設置状況、ならびに3)屋外に排せつ物がないこと、を満たしている場合に認定され、その達成状況は、各行政村において四半期に一度更新される。</p>
(2)事業内容	<p>本事業では、申請書の記載内容に沿って以下の活動を行った。</p> <p>活動1: 就学児童・生徒の衛生知識向上と行動変容の促進</p> <p>【子どもクラブの結成と能力強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> - まず事業対象の16校において、「子どもクラブ」(日本の生徒会に該当)の結成を支援した。うち既存のクラブが存在していたものの活発でない学校ではクラブの再結成を促した。メンバー数は全校生徒数の規模を踏まえ、生徒50人あたり1人を選出した(全対象校において計291名/児童・生徒総数8,550名)。他方、各学校から2名ずつ担当教師を選出し、子どもクラブの活動ならびに校内の衛生活動をサポートするよう依頼した。 - 同クラブのメンバーに対して「衛生基礎研修(2日間)」と「衛生応用研修(2日間)」を実施した。基礎研修は2014年11~12月に行い、環境及び個人衛生の重要性、手洗い、トイレ使用、歯みがき、爪切り、身だしなみの正しい方法を中心に指導した(計289名参加)。また、応用研修は、高学年児童を対象に2015年6~7月に行った。基礎研修の振り返りの他、学校内・周辺環境視察や他者への効果的な伝え方なども含んだ内容とし、研修を受けた児童たち自身がコミュニティにおける啓発活動を実践できるようサポートを行った(計287名参加)。 - 2015年4月、担当教師32名と各校校長に対して、「衛生啓発ファシリテーション研修」を実施した。この間、対象地域ではストライキが行われていたが、1名を除く全対象者が3日間の研修に参加し、彼らの高い参加意欲を引き出すことに成功した。 - 複数のIEC教材を調達・作成し、子どもクラブメンバーによる、校内ならびにコミュニティにおける衛生啓発活動を促進するツールとして活用した。 <p>【子どもクラブによる校内衛生啓発活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 上述の「衛生基礎研修」を実施した後、各校で子どもクラブが主体となって行う衛生啓発活動を開始した。同クラブメンバーは、朝礼や課外授業の時間を活用し、研修で身に付けた知識を伝えた他、歯みがきや手洗い、爪切り実技指導などを行った。 - そのプロセスの中で、メンバーが個人衛生チェックシートを作成し、毎月全校生徒の爪や身だしなみの状況を確認した。 - 環境・個人衛生に係る知識向上を促すため、各学校において以下の活動を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画コンテスト(2014年11~12月、計285名参加) ・ クイズコンテスト(2015年1~2月、計510名参加) ・ スピーチコンテスト(2015年1~2月、計159名参加)12校 ・ 衛生啓発アニメの上映(2015年1~2月、計5,435名参加) ・ ディベートコンテスト(2015年2月~3月、計168名参加)12校 - 事業終了1カ月前、郡レベルの行政機関(開発局、水道局、女性開発局、教育局)からオフィサーを招聘し、各学校の衛生関連活動について評価を行った。 - 事業終了前に、各学校の子どもクラブが活動内容や成果を披露する学校間発表会を実施した(2015年12月)。同発表会は行政村ごとに計4回開催し、子どもクラブのメンバー(計291名)、子どもクラブ及び一般生徒の保護者(計563名)、郡開発局、水道局、教育局などの関係行政職員(計32名)の他、多数の一般児童・生徒が参加した。発表会では、各学校で子どもクラブメンバーを中心に作成した成果物(絵画、工作など)の展示や、ステージでのストリートドラマ、ス

ピーチ、合唱などの発表を行った。これら発表内容と、上述の行政担当官による評価結果を併せ、行政村ごとに「衛生モデル学校」を選出した。

活動2: 学校内における環境衛生改善支援

【校内清掃活動の推進】

- 活動1で述べた「衛生基礎研修」実施後、クラブ毎に活動計画を策定し、週の一日(多くの学校は毎週金曜日)を清掃日として設定した。その日は、クラブのメンバーが他生徒へ呼びかけを行いながら、校庭や教室内のゴミ拾いを率先して行った。
- 各学校は、校舎壁にペイントを施すなどして、環境衛生の理解促進に努めた。

【衛生設備の新設・修繕】

- 2014年9月、対象16校の衛生設備(トイレ、ハンドポンプ)の状況について調査を行い、その結果ならびに学校運営委員会の状況(設置後のメンテナンス可否)に基づいて、投入内容の再確認を行った。その結果、3校において計8基のトイレを、また2校においてハンドポンプを新設し、さらに5校におけるトイレ計17基の壁や扉、また排水管などの修繕を行うこととなった。
- 2015年10月から、一般競争入札を経て選定された建設業者が工事に着手したが、4月の大地震に加え、8月中旬より続いたタライ地域におけるストライキなどの影響により、作業は9月～12月初旬にかけて中断した。
- その後、地元有力者などの協力を得、資材や作業員の調達を行い、2016年1月中旬に全ての建設を完了させることができた。

活動3: 環境衛生改善活動における学校とコミュニティの連携促進

【コミュニティにおける衛生状況の把握】

- 活動1で述べた「衛生応用研修」と担当教師に対する「衛生啓発ファシリテーション研修」の実施後、子どもクラブの活動として、学校近隣コミュニティにおける衛生状況を把握するワークショップを実施した(全36カ所、子どもクラブメンバー、コミュニティ住民など計2,386名参加)。
- ワークショップでは、子どもクラブと地域住民が小グループに分かれてトランセクト・ウォーク(地域内を歩き、リソースや問題のある場所を確認する)を行い、また各グループからの発表や協議を基に地図を作成し、コミュニティや住環境の衛生状況の視覚化を図った。

【コミュニティ衛生啓発活動の実施】

- コミュニティにおいて、ストリートドラマや衛生啓発アニメの上映会を行い、環境・個人衛生に関する意識改善を促した(ストリートドラマ、上映会はともに38回開催され、それぞれ6,860名、3,093名が参加)。これらを通じて感じたことを参加者で話し合い、コミュニティの「衛生スローガン」を策定し、衛生啓発ボードに描き設置した(4カ所)。
- 上述のワークショップ後、母親グループを中心とした地域住民が、共同水場周辺や排水溝の清掃を定期的に行うなどの活動計画を策定した。
- 子どもクラブによる「衛生キャンペーン」を実施し、環境美化やトイレ設置を呼びかけながらコミュニティ内を歩く「ラリー」を行った他、子どもクラブと地域住民が共同で清掃活動に取り組んだ。(計52回、子どもクラブメンバー、一般生徒、母親グループ、コミュニティ住民など3,585名参加)

(3)達成された 成果	本事業で設定した各成果指標に対する達成状況は以下の通りである。	
	成果1: 就学児童・生徒の知識向上と行動変容が促進される	
	指標	達成状況
	正しい衛生知識を有する児童・生徒の割合が50% →80%に向上する	各学校における衛生啓発イベントごとに、参加児童・生徒に対して簡易テストを行った結果、質問に正しく回答した児童・生徒の割合は82%であった。
	食事前と排泄後に石鹸を使って手を洗う児童・生徒の割合が30%→60%に向上する	各校、各クラスにおける月例のモニタリング、ならびに事業終了時の簡易聞き取り調査において、食事前に石鹸を使って手を洗う児童・生徒は61%、排泄後では93%であった。
	常にトイレを使用する児童・生徒の割合が6%→50%に向上する	各校、各クラスにおける月例のモニタリング、ならびに事業終了時の簡易聞き取り調査において、常にトイレを使用する児童・生徒の割合は58%であった。この背景には、家にトイレがない、学校のトイレでは並ばなければならないなどの理由が挙げられた。
	この他、各校、各クラスにおいて個人衛生(身だしなみ、頭髪、爪の状態)のモニタリングを行ってきた結果、常に個人衛生の良好な状態が維持されている児童・生徒が全体の7割を占めるに至った。事業開始時の3割から大幅に増加したことで、本事業を通じて児童・生徒の行動変容が促進されたことが確認できた。	
	成果2: 学校内の環境衛生が改善される	
	指標	達成状況
	教室及び校庭の清掃が定期的に行われる公立学校の割合が26%(4校)→100%(16校)に向上する	各校の子どもクラブが記録した毎月のモニタリング結果によると、教室及び校庭の清掃が定期的(週1回)に行われた学校の数は、事業終了時において14校であった。但し、残り2校においても3週間に1回の頻度で行われており、事業開始時と比較して学校の環境美化に努めている事が確認できた。
政府基準の半分を満たすトイレ78基全てが常に使用可能な状態(清潔、溜め水の設置、壊れていない)にある。	事業での活動を通じて、政府基準の半分を満たす数のトイレ83基が各校に整備された。事業終了時のモニタリングでは、それらのいずれにおいてもトイレは使用可能な状態であることが確認できた。	
成果3: 環境衛生改善活動において学校とコミュニティの連携が促進される		
指標	達成状況	
子どもクラブメンバーの内80%以上がコミュニティの衛生活動に参加する	子どもクラブの全メンバーが、コミュニティで実施したいずれかの活動に参加している。各活動での子どもクラブメンバーの参加率は9割以上であった。	
児童・生徒の父兄の内60%以上が学校での衛生改善活動について理解している	本事業は、活動地域を学校の外であるコミュニティにも広げた。具体的には、ストリートドラマ、ドキュメンタリー上映、衛生ワークショップ、キャンペーンなどであり、父兄をはじめとする参加者数が延べ1万5千人を上回ったことから、学校衛生を柱とした環境衛生への取り組みを十分周知することができた。更に、学校間発表会に参加した保護者から「子どもが家でも自分で制服を洗濯するようになった」などのコメントが発せられ、事業や学校の取り組みについて継続を望む声が多数聞かれた。	

<p>(4) 持続発展性</p>	<ul style="list-style-type: none">- 本事業で取り組んだ、学校を中心とした環境・個人衛生の改善に向けた活動については、政府保健方針の一部を構成しており、郡行政関係機関からも高い評価を得た。学校やコミュニティにおけるイベントには、行政職員の多くが参加し、本事業の活動について理解を深めてもらった。従って、今後行政が推進する衛生活動に本事業の成果が反映されることを期待している。- 事業を通じて建設・修繕した衛生施設は、各学校の学校運営委員会にハンドオーバーされた。今後、運営委員会が日常的な維持管理・メンテナンスを行う他、教育局の地域担当オフィサーが利用状況などについてモニタリングを行う。
------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------